View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

神戸学院大学心理学研究 2018 年　第 1 巻 第 1 号　pp.43–55

研 究 報 告
Research Report
（査読なし）

神戸学院大学心理学部における教育の現状と課題：2018 年度学生アンケートの結果報告

白木 優馬　秋山 学　土井 晶子　長谷川 千洋
博野 信次　石﨑 淳一　小久保 香江　小山 正
三和 千徳　清水 寛之　道城 裕貴　松島 由美子
村井 佳比子　村山 恭朗　山本 恭子　毛 新華
長谷 和久　中川 裕美　中村 珍晴　難波 愛
定政 由里子　竹田 剛　森下 雄輔　西浦 真喜子
寺田 衣里　神戸学院大学心理学部

The present state and perspectives on education of psychology in department of psychology, Kobe Gakuin University

Yuma Shiraki, Manabu Akiyama, Akiko Doi, Chihiro Hasegawa,
Nobutsugu Hirono, Junichi Ishizaki, Kae Kokubo, Tadashi Koyama,
Chitoku Miwa, Hiroyuki Shimizu, Yuki Dojo, Yumiko Matsushima
Keiko Murai, Yasuo Murayama, Kyoko Yamamoto, Xinhua Mao,
Kazuhisa Nagaya , Hiromi Nakagawa, Takaharu Nakamura, Ai Namba,
Yuriko Sadamasa, Tsuyoshi Takeda, Yusuke Morishita, Makiko Nishiura
and Eri Terada（*Department of Psychology, Kobe Gakuin University*）

神戸学院大学心理学部における教育の現状と課題を把握するため，1 年次生から 4 年次生を対象とした学生アンケートを実施した。具体的には，秋山他 (2018) で用いられたアンケートを基にして従来の結果との比較可能性を保ちながら，過去のアンケートで指摘のあった広報活動の課題，および 2019 年度から発足する神戸学院大学心理学研究科に関する質問を新たに追加した。分析の結果，学外向けの広報活動としては，学部 HP を通じた発信をおこないながら，LINE や Twitter といった新たな SNS を併用することが有効である可能性が明らかになった。また，これらの SNS は，学内向けの情報発信手段であるドットキャンパスの補完としての位置づけも可能であることが示された。神戸学院大学心理学研究科については，心理学部として改組された 2018 年度の 1 年次生において特に関心が高いことが明らかとなった。

キーワード：学生アンケート，FD，IR，SNS

Kobe Gakuin University Journal of Psychology
2018, Vol.1, No.1, pp.43-55

問　題

近年の少子高齢化の中で入学希望者を確保するためには，教学 IR（Institutional Research）による課題の把握および改善を通じ，大学教育の質を保っていく必要がある。2018 年度より，人文学部人間心理学科から心理学部として改組された本学部では IR の一環として，2006 年度から毎年，学生アンケートを実施し，授業や広報活動，学生生活，将来の進路など，多様な観点から学部教育の現状の課題を把握してきた。その結果として，授業や卒業研究などのサポートに関する要望の把握，改善に努めてきた（小石他 , 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014; 山鳥他 , 2007, 2008; 吉野他 , 2015, 2016）。近年では，新たに広報活動の問題が明らかにされており，その改善を図っていくことが求められている（秋山他 , 2017, 2018）。また，本格的な公認心理師養成の機運が高まる中，神戸学院大学では 2019 年度より新たに心理学研究科が発足する。したがってこれからは，学部教育における要望の把握と共に，大学院進学を見込んだ教育のあり方の検討にも注力していく必要がある。

そこで本稿では，秋山他（2018）で用いられたアンケートを基にして従来の結果との比較可能性を残しながら, 上述した新たな課題を検討する。具体的には, 以下の三点を新たに検討する。

一点目として，過去のアンケートで明らかにされた広報活動の問題とその改善策に関する検討をおこなう。2015 年度から学生アンケートでは，学部ホームページ（以下，HP）と Facebook の認知度・閲覧頻度を尋ねてきた。しかし，Table 1 に示す通り，いずれの認知度・閲覧頻度も，高いとは言えない値を推移している。この原因として，両媒体は外部者からの閲覧が可能かつ外部向けの情報発信が多いことから, その対象が明確でないことが挙げられる（秋山他, 2018）。そこで本稿では，これらの媒体を対外的な広報手段として位置づけ，その有用性について検討する。具体的には，1 年次生のみを対象として，進学先を決定する際に，HP と Facebook からどのような情報をどれ程取得していたかを尋ねることで，対外的な広報手段としての有用性を確認する。

二点目として，SNS 利用に関する実態調査をおこなう。先述の通り，本学部では Facebook を利用した情報発信をおこなっている。しかし，2015 年度（吉野他 , 2015）は 37%，2017 年度（秋山他 , 2018）はわ

Table 1
学生アンケートにおける HP，Facebook，掲示パネル，ドットキャンパスの閲覧状況の推移
（2014 年度から 2017 年度まで）

媒体	閲覧頻度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
HP	ほぼ毎日	-	1.6%	1.0%	1.2%
	週に3~4日	-	4.0%	1.2%	3.0%
	週に1~2日	-	8.4%	8.1%	8.5%
	月に数回	-	17.8%	23.3%	17.9%
	それ以下	-	32.5%	34.6%	35.2%
	見たことは無い	-	14.5%	13.2%	16.5%
	あることを知らなかった	-	21.3%	18.6%	17.9%
Facebook	ほぼ毎日	-	0.5%	0.5%	0.6%
	週に3~4日	-	1.4%	1.3%	1.4%
	週に1~2日	-	2.4%	1.5%	0.4%
	月に数回	-	3.3%	3.5%	1.2%
	それ以下	-	6.4%	8.0%	7.2%
	見たことは無い	-	24.7%	27.3%	26.5%
	あることを知らなかった	-	61.3%	57.9%	62.7%
掲示パネル	ほぼ毎日	0.0%	0.7%	1.0%	1.6%
	週に3~4日	0.0%	1.2%	0.8%	0.6%
	週に1~2日	2.8%	2.8%	3.3%	4.0%
	月に数回	23.8%	15.8%	21.1%	19.4%
	それ以下	73.5%	37.1%	36.3%	38.3%
	見たことは無い	-	29.9%	27.1%	26.0%
	あることを知らなかった	-	12.5%	10.5%	10.2%
ドットキャンパス	ほぼ毎日	2.2%	5.7%	3.0%	6.2%
	週に3~4日	2.2%	8.5%	6.4%	11.3%
	週に1~2日	16.8%	17.0%	24.4%	28.6%
	月に数回	39.8%	29.9%	35.7%	44.3%
	それ以下	39.0%	30.3%	25.4%	31.5%
	見たことは無い	-	6.9%	3.5%	1.7%
	あることを知らなかった	-	1.6%	4.9%	2.7%

ずか 20％の学生しか Facebook を利用していないことが明らかになっている。これは，2015 年ごろをピークとして 10 代 20 代の Facebook の利用率が低下しているという社会的な動向と一致する（総務省 , 2017）。一方で，Twitter や LINE といった他の SNS の利用率は増加の一途をたどっており（総務省 , 2017），学生が主として利用する SNS は Facebook から Twitter, LINE などに移行している様子がうかがえる。確かに，吉野他（2015）の指摘にあるように，SNS は即時性の高い情報発信手段としては有用である。ただし，いかなる手段を用いるべきかについては，学生の SNS 利用に関する実態を調査して慎重に判断すべきであろう。そこで本稿では，SNS 利用に関する実態調査をおこなうと同時に，学内向けの情報の受信方法に関するニーズについても併せて検討する。

最後に，大学院進学意思について検討する。2019 年度から神戸学院大学大学院心理学研究科が新たに発足する。公認心理師資格取得の機運が高まっている中で，進学先として心理学研究科を志望する学生の現状を把握できれば，大学院進学を見据えた学生に対する教育の在り方を改めて見直すことができるだろう。そこで，本稿では，公認心理師資格取得意志のある学生に対して，心理学研究科への進学意思を尋ねる項目を新たに設置する。

方　法

調査対象者

本調査は 2018 年度において神戸学院大学心理学部心理学科に所属する 1 年次生，および同人文学部人間心理学科に所属する 2 年次生から 4 年次生を対象とした。有効回答は 408 名（1 年次生 139 名，2 年次生 119 名，3 年次生 81 名，4 年次生 69 名）であった。

調査時期および調査手続き

本調査は，2018 年 6 月 6 日から，授業時間内の一部を用いて実施された。各学年の演習授業（「心理学入門演習Ⅰ」,「人間心理学基礎演習」,「専攻演習Ⅱ」,「専攻演習Ⅳ」）にて，オンラインアンケートによる調査をおこなった。QR コードを記載した用紙を配布し，スマートフォンで QR コードを読み取り，オンラインアンケートに回答するように求めた。スマートフォンによる回答ができない場合は，用紙に学籍番号を記入して提出するように求められた。該当者には，後日ドットキャンパスから案内が送られ，オンラインアンケートへの回答が依頼された。2018 年 6 月 15 日を以って調査を終了した。調査協力者には，結果の公表に際して個人の特定はおこなわれないこと，データは学部運営および研究目的のみに使用すること，調査への協力は任意であることを周知した。

調査内容

調査は，秋山他（2018）の調査に項目の追加・修正して実施した。以下，秋山他（2018）との異同を中心として説明する。

まず，調査協力者は自身の所属する学年について回答するように求められた。以降では，回答された学年に応じて異なるセクションの質問項目が提示された。質問項目は，全 12 セクションあった。学年ごとに提示されたセクションの一覧を Table 2 に示す。Table 2 に示すように，項目セクション 1 から 3，および 5 と 6 については, 1 年次生のみに, 項目セクション 4 については 2 年次生のみに回答を求め，それ以降のセクションについては全学年の学生を対象とし

Table 2
調査に用いた項目セクションの一覧

セクション	学年				秋山他 (2018) との異同
	1	2	3	4	
1 心理学に対する興味・関心	○				
2 オープンキャンパス	○				
3 学科・学部HPおよびフェイスブック	○				修正
4 ゼミ選択		○			
5 大学入学前の心理学に対するイメージ	○				
6 現在の心理学に対するイメージ	○				
7 学内情報掲示パネル	○	○	○	○	
8 ドットキャンパス	○	○	○	○	
9 心理学マニュアルについて	○	○	○	○	
10 共同作業スペースについて	○	○	○	○	
11 将来の進路について	○	○	○	○	修正
12 SNSの利用について	○	○	○	○	追加
項目数（最大）	44	26	24	24	

Note. 最終列には，秋山他 (2018) の調査との異同を示した。「修正」は項目内容の見直しをおこなったことを意味し，「追加」は新たに追加された項目を意味する。これらの記載がないものについては秋山他 (2018) と全く同じ質問項目を利用した。最終行には学年別に調査協力者が回答した項目数を示した。回答内容によって提示された項目数が異なるため，最大数を示している。

て回答を求めた。

項目セクション 1（心理学に対する興味・関心）は，2 項目（入学動機，興味のある心理学領域）から構成された。入学動機については過去の自由記述による調査で出現頻度の高かった 7 件（心理学に興味があったから，心理学が生かせる仕事に興味があったから，自分自身の悩みを解決したかったから，悩む人の助けになりたかったから，学校の先生や家族・友人に勧められたから，学力レベルが自分にあっていたから，推薦入試・AO 入試があったから）に「その他」を加えた 8 選択肢から複数選択が可能な項目選択法により回答を求めた。興味のある心理学領域については，社団法人日本心理学会の大会発表における 20 領域の名称（原理・方法，人格，社会・文化，臨床・障害，犯罪・非行，数理・統計，生理，感覚・知覚，認知，学習，記憶，言語・思考，情動・動機づけ，行動，発達，教育，産業･交通，スポーツ･健康，ジェンダー，環境）に「その他」と「興味のある心理学領域はない」を加えた 22 の選択肢から複数選択が可能な項目選択法により回答を求めた。

項目セクション 2（オープンキャンパスについて）では，入学前に心理学部のオープンキャンパスに参加したか否かについて 2 件法（参加した，参加していない）で回答を求めた。

項目セクション 3（学部 HP および Facebook）では，進学先を決定する際に，学部 HP および Facebook の情報を参考にしたかを尋ねた。それぞれに対して 3 つの質問項目（「進学先決定に際しての閲覧」，「閲覧した情報の内容」，「今後充実させるべき内容」）への回答を求めた。具体的には，進学先決定に際しての閲覧については，3 件法（見た，あることは知っていたが見たことはない，あることを知らなかった）で回答を求めた。閲覧した情報の内容と今後充実させるべき内容については 10 選択肢（どのような研究をしているのか，どのような先生がいるのか，どのような施設・設備があるのか，どのような学生がいるのか，どのような授業があるのか，どのような資格が取れるのか，どのような就職先がありそうなのか，どのような大学院があるのか，どのようなイベントがあるのか，見ていない）から複数選択が可能な項目選択法による回答を求めた。

項目セクション 4（ゼミ選択について）は，2 項目（「ゼミ選択において重要視したことと」，「選択前にもっと知っておきたかったこと」）について 9 つの選択肢（自身の興味・関心，教員の研究，教員の人柄，先輩などの評判，配属後の講義･実習内容，ゼミ運営･卒論指導方針，進路・資格との関係，先輩や同期との交友関係，他学生の動向）に「重要視したことはない／不足はなかった」を加えた 10 選択肢から複数選択が可能な項目選択法により回答された。

項目セクション 5（大学入学前の心理学に対するイメージ）および項目セクション 6（現在の心理学に対するイメージ）では 過去の自由記述による調査で出現頻度の高かった 5 つのイメージ（「心理学を学ぶことは難しい」，「心理学を学ぶことは楽しい」，「心理学を学べば相手の心を読むことができる」，「心理学といえば臨床心理学のことである」，「心理学は科学的である」）について，それぞれ 4 件法（1 = まったくそう，2 = ややそう，3 = やや違う，4 = まったく違う）で回答を求めた。

項目セクション 7（学内情報掲示パネル）は，3 つの質問項目（「閲覧頻度」，「閲覧する情報の内容」，「今後充実させてほしい内容」）から構成された。閲覧頻度については 7 件法（ほぼ毎日，週に 3-4 日，週に 1-2 日，月に数回，それ以下，あることは知っていたが見たことはない，あることを知らなかった）で回答を求めた。

項目セクション 8（ドットキャンパスについて）は，4 項目（「閲覧頻度」，「閲覧方法」，「役立ったと感じる内容」，「今後充実させてほしい内容」）から構成された。閲覧頻度は項目セクション 5-7 と同じ 7 件法で回答を求めた。閲覧方法は，5 選択肢（パソコンでアクセス，スマートフォン・携帯電話などでアクセス，パソコンでドットキャンパスからの転送メールを確認，スマートフォン・携帯電話などでドットキャンパスからの転送メールを確認，確認していない）から複数選択が可能な項目選択法により回答を求めた。役立ったと感じる内容と今後充実させてほしい内容については，ドットキャンパスシステムの 5 機能（講義のお知らせ，時間割・シラバス確認，スケジュール管理，授業評価履歴，教職員への質問）に「役立っている内容はない／現状のままで問題ない」を加えた 6 選択肢から複数選択が可能な項目選択法で回答を求めた。

項目セクション 9（心理学マニュアルについて）は 3 項目（「携帯頻度」，「役立ったと感じる内容」，「今後充実させてほしい内容」）から構成された。携帯頻度は 3 件法（毎日，授業で必要なとき，持ってこない）で回答された。役立ったと感じる内容と今後充実させてほしい内容については心理学マニュアルの各章の内容（授業や大学生活のルールとマナー，施設・設備･機器の使い方･借り方，ゼミ発表の準備，レポートの書き方，各領域の内容･知識，卒業論文の進め方，卒業後の進路，資格の取得）に「役立っている内容はない／現状のままで問題ない」を加えた 9 選択肢から複数選択が可能な項目選択法で回答を求めた。

項目セクション 10（共同作業スペースについて）は 2 項目（利用頻度，利用用途）から構成された。利用頻度は項目セクション 5-7 と同じ 7 件法により回答された。利用用途は 8 選択肢（一人で飲食，複数人で飲食，一人で休憩，複数人で休憩，一人で勉強・作業，複数人で勉強・作業，その他，利用したことはない）から複数選択が可能な項目選択法により回答を求めた。

項目セクション 11（将来の進路について）は 10 項目（「希望進路」,「関心のある心理専門職」,「関心のある心理学関連資格」,「臨床心理士資格への関心」,「臨床心理士資格の取得意志」,「公認心理師資格の認知度」,「公認心理師資格への関心」,「公認心理師資格の取得意志」「心理学研究科への興味」,「心理学研究科修士課程への進学意思」）から構成された。希望進路は 8 つの選択肢（企業に一般就職，心理学関連企業に就職，一般的な公務員，心理学関連の公務員，教員，大学院進学，専門学校への進学，その他）から複数選択が可能な項目選択法により回答を求めた。関心のある心理専門職は 13 の選択肢（法務省矯正心理専門職，法務省法務教官，法務省保護観察官，家庭裁判所調査官，児童相談所心理判定員，難聴幼児通園施設，情緒障害児短期治療施設，知的障碍者・身体障碍者更正相談所，精神保健福祉センター，学生相談室・教育相談機関，神経科・精神科・心療内科，その他，関心のある心理専門職はない）から複数選択が可能な項目選択法で回答を求めた。関心のある心理学関連資格は 12 の選択肢（認定心理士，学校心理士，臨床発達心理士，産業カウンセラー，認定カウンセラー，応用心理士，特別支援教育士，社会福祉士，言語聴覚士，精神保健福祉士，その他，関心のある資格はない）から複数選択が可能な項目選択法により回答を求めた。また，臨床心理士については，公認心理師に対する回答結果と比較するため，単独で資格への関心，および資格取得の意志を問う項目を設けた。公認心理師については，資格への関心，資格の取得意志に加えて認知度を問う項目を含め 3 項目を設けた。これら 2 つの資格については，資格への関心を 4 件法（非常に関心がある，やや関心がある，あまり関心がない，まったく関心がない），資格取得の意志を 4 件法（非常にそう思う，ややそう思う，あまりそう思わない，まったくそう思わない），公認心理師資格のみ認知度を 4 件法（よく知っている，少し知っている，名前を知っている程度，知らなかった）で，それぞれ回答を求めた。公認心理師資格の取得意志に対して，「非常に関心がある」または「やや関心がある」と回答した者に対しては，追加で神戸学院大学大学院心理学研究科への興味（興味がある・やや興味がある・どちらとも言えない・全くそう思わない）および進学意思（進学先として検討している・進学先として検討する可能性がある・どちらとも言えない・進学を希望していない）について尋ねた。

項目セクション 12（SNS の利用について）は 2 項目（「普段の SNS 利用」,「学部からの情報受信」）から構成された。普段の SNS 利用では，5 つの選択肢（Facebook，Twitter，LINE，Instagram，その他）から，普段利用している SNS を選択するように求めた。回答は複数選択が可能であった。学部からの情報受信では，今後，心理学部から発信される各種の情報をどのような形で受け取りたいかを 7 つの選択肢（Facebook，Twitter，LINE，Instagram，メール，ドットキャンパス，その他）から複数選択するように求めた。

結　果

1 年次生の心理学に関する興味・関心

まず，本学部 1 年次生の入学動機についてまとめた。もっとも多く選択された動機は「心理学に興味があったから（85.6%）」であった。次いで「心理学が活かせる仕事に興味があったから（32.4%）」,「悩む人の助けになりたかったから（32.4%）」,「自分自身の悩みを解決したかったから（21.6%）」,「推薦入試・AO 入試があったから（12.2%）」,「学校の先生や家族，友人に勧められたから（11.5%）」,「学力レベルが自分にあっていたから（8.6%）」,「その他（6.5%）」であった。

次に，1 年次生が興味を示した心理学領域を Figure 1 に示す。最も多く選択された領域は「人格（56.1%）」であり，次いで「犯罪･非行（52.5%）」,「行動（41.7%）」であった。

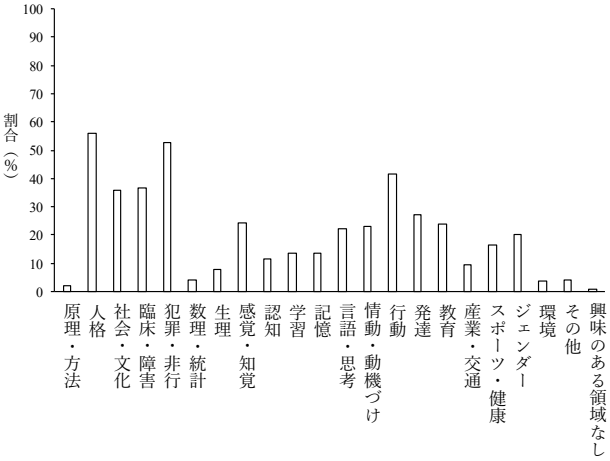

Figure 1. 1 年次生が興味のある心理学領域

オープンキャンパス

どの程度の 1 年次生が入学前のオープンキャンパスに参加していたかを集計した。その結果，全体の 35.3% の 1 年次生がオープンキャンパスに参加していたことが明らかとなった。

学部 HP および Facebook

1 年次生のうち，進学先を決定する際に学部 HP を閲覧したことのあった学生は，74.8％であった。閲覧していた内容は，「どのような授業があるのか（54.7%）」，次いで「どのような施設・設備があ

るのか（36.7%）」,「どのような研究をしているのか（27.3%）」などが多数を占めていた（Figure 2）。今後，充実させた方が良いと思う内容としては,「どのような授業があるのか（41.7%）」,「どのような就職先がありそうなのか（33.1%）」,「どのような資格が取れるのか（28.8%）」などが多く挙げられた。

Facebook を「頻繁に利用している」，または「たまに利用している」と回答した学生は 17.3％であった。進学先の決定に際して，学部 Facebook を閲覧したことがあった学生は 3.6% であった。なお，今後，充実させたほうが良いと思う内容に関しては,「特にない（70.5%）」が大多数を占めた。

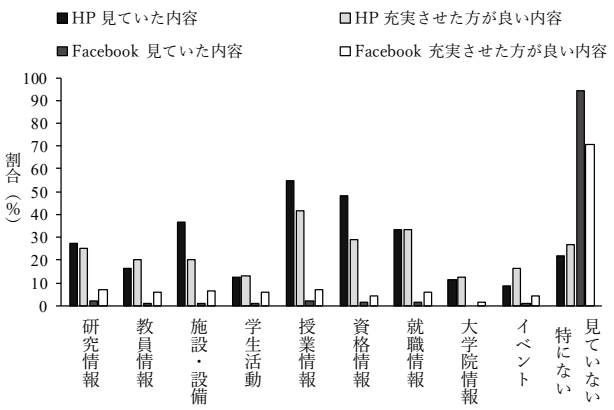

Figure 2. HP および Facebook で見ていた内容・充実させた方が良い内容

ゼミ選択の現状と要望

2 年次生のみを対象としたゼミ選択についての集計結果を Figure 3 に示す。まず，希望するゼミを選択する上で重要視したことについては,「自身の興味・関心（81.5%）」,「教員の人柄（58.0%）」が多かった。また，ゼミを選択する前にもっと知っておきたかったこととしては,「担当教員の研究テーマ（46.2%）」,「配属後の講義・実習（36.1%）」,「担当教員の人柄（33.6%）」などが挙げられた。

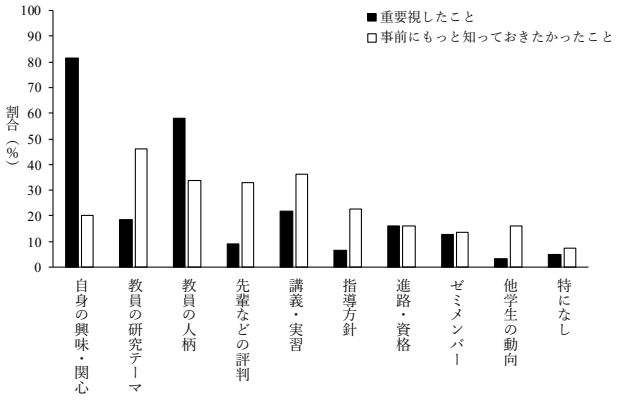

Figure 3. ゼミ選択で重要視したこと，事前にもっと知っておきたかったこと

大学入学前と現在の心理学に対するイメージ

1 年次生の大学入学前と現在の心理学に対するイメージについて平均値を算出した（Table 3）。なお，得点が高いほどその項目が示す傾向を強く感じていることを意味する。入学前と現在の心理学に対するイメージの間に差について検討するため，対応のある t 検定をおこなったところ,「心理学を学ぶことは難しい」,「心理学は科学的である」の 2 項目については，入学前よりも現在の方が有意に高くなっていた。一方で,「心理学を学べば相手の心が読める」,「心理学といえば臨床心理学である」の 2 項目については，入学前よりも現在の方が有意に低くなっていた。「心理学を学ぶことは楽しい」については，有意な差は確認されなかった。

Table 3
1 年次生の入学前と現在の心理学に対するイメージ

項目	*M* (*SD*) 入学前		*M* (*SD*) 現在	*t* (138)
1 心理学を学ぶことは難しい	2.83 (0.85)	<	3.14 (0.75)	4.76***
2 心理学を学ぶことは楽しい	3.53 (0.59)		3.47 (0.63)	1.24
3 心理学を学べば相手の心が読める	2.63 (0.91)	>	2.11 (0.88)	7.56***
4 心理学といえば臨床心理学である	2.99 (0.78)	>	2.54 (0.92)	5.92***
5 心理学は科学的である	2.58 (0.86)	<	2.93 (0.85)	5.16***

*** $p < .001$

情報掲示パネル，ドットキャンパスの現状と要望

情報掲示パネルおよびドットキャンパスの閲覧状況を Table 4 に示す。情報掲示パネルに関しては，月に数回未満または閲覧したことがないと回答した学生が 7 割近かった。ドットキャンパスについては，月に数回以上確認している学生がおよそ 8 割を占めていた。

Table 4
報掲示パネルおよびドットキャンパスの閲覧状況

	掲示パネル	ドットキャンパス
1 ほぼ毎日	1.0%	5.9%
2 週に3~4日	1.0%	9.6%
3 週に1~2日	7.4%	21.1%
4 月に数回	25.5%	41.9%
5 それ以下	27.0%	19.1%
6 見たことは無い	29.9%	2.2%
7 あることを知らなかった	8.3%	0.2%

次に，情報掲示パネルにおいて，見ている内容および今後充実させてほしい内容を Figure 4 に示す。見ている内容として,「研究情報（31.9%）」「教員情報（17.2%）」,「資格情報（13.0%）」が挙げられ，充実させてほしい内容として,「就職情報（29.7%）」,「資格情報（21.6%）」,「研究情報（19.6%）」が挙げられた。ただし,「見ていない（48.3％）」および「（充実させ

てほしい内容は）特にない（44.9%）」という回答が大半であった。

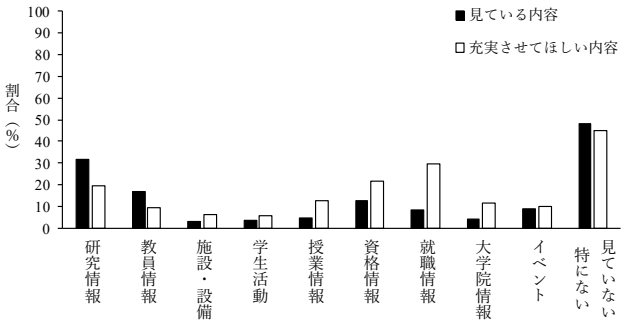

Figure 4. 情報掲示パネルで見ている内容，充実させてほしい内容

ドットキャンパスにおいて，役立った内容および今後充実させてほしい内容を Figure 5 に示す。役立った内容としては，「講義のお知らせ（86.8%）」，「時間割・シラバス（55.1%）」という回答が特に多かった。今後充実させてほしい内容としては，「現状で問題ない（54.2%）」という回答が半数以上を占めた。

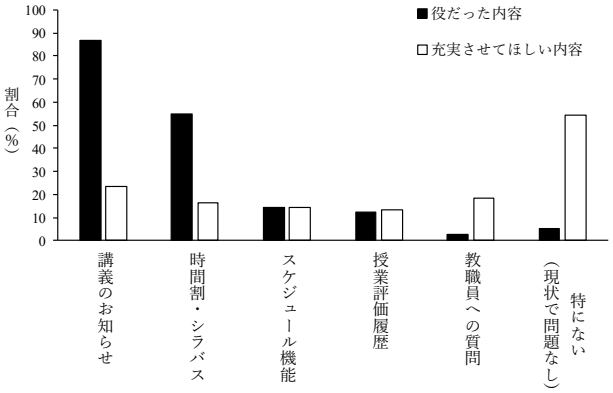

Figure 5. ドットキャンパスで役立った内容，充実させてほしい内容

心理学マニュアルの現状と要望

学生が心理学マニュアルを大学に持参している頻度について集計した。その結果，「毎日持ってきている」を選択した学生が 13.5%，「授業で必要な時だけ持ってきている」を選択した学生が 51.0%，「あまり持ってきたことはない」を選択した学生が 35.5% であった。

心理学マニュアルで役に立った内容，今後充実させてほしい内容について学年別に集計した結果を Table 5 に示す。「レポートの書き方について」を選択した割合が，1 年次生は 38.8%，2 年次生で 95.0%，3 年次生で 91.4%，4 年次生で 84.1% といずれの学年においても最も高かった。4 年次生では「卒業論文（76.8%）」を選択した割合も高かった。他学年に比べて 1 年次生では「役に立ったと感じる内容はない（22.8%）」と回答した者が多くみられた。

また，心理学マニュアルで今後充実させてほしい内容については，いずれの学年においても「現状のままで問題ない」という回答が最も多く，1 年次生は 46.8%，2 年次生で 42.0%，3 年次生で 39.5%，4 年次生で 43.5% の学生が選択していた。次いで，「レポートの書き方」，「卒業後の進路」について充実させてほしいと回答した学生が，1 年次生から 4 年次生にわたって多くみられた。

共同作業スペースの利用状況

共同作業スペースの利用頻度について集計したところ，「ほぼ毎日」利用している学生は 4.7%，「週に 3 ～ 4 日」が 2.5%，「週に 1 ～ 2 日」が 5.6%，「月に数回」が 11.3%，「それ以下」の頻度が 42.9% であった。また「共同作業スペースがあることは知っていたが，見たことはない」（23.3%）と「共同作業スペースがあることを知らなかった」（9.8%）を合わせて 33.1%

Table 5
学年ごとの心理学マニュアルで役立った内容，充実させてほしい内容

	役だったと思う内容				充実させてほしい内容			
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
1 大学ルールとマナー	21.6%	7.6%	9.9%	14.5%	8.6%	0.8%	6.2%	8.7%
2 施設・設備	37.4%	18.5%	14.8%	20.3%	8.6%	5.9%	11.1%	5.8%
3 ゼミ発表	26.6%	37.0%	28.4%	34.8%	16.5%	11.8%	11.1%	5.8%
4 レポートの書き方	38.8%	95.0%	91.4%	84.1%	27.3%	26.1%	24.7%	18.8%
5 各領域の知識	7.9%	21.0%	17.3%	8.7%	11.5%	20.2%	11.1%	10.1%
6 卒業論文	8.6%	4.2%	21.0%	76.8%	18.7%	22.7%	25.9%	33.3%
7 卒業後の進路	5.8%	5.0%	7.4%	7.2%	20.1%	26.1%	24.7%	20.3%
8 資格取得について	14.4%	10.1%	6.2%	8.7%	21.6%	23.5%	21.0%	14.5%
9 役だったことがない	28.8%	2.5%	6.2%	0.0%	―	―	―	―
10 現状で問題ない	―	―	―	―	46.8%	42.0%	39.5%	43.5%

の学生が全く利用したことがないと回答していた。

次に，共同作業スペースの利用用途を Figure 6 に示す。多くの学生が利用したことはない（49.3%）と回答していた一方で，24.0% の学生が「飲食（誰かと一緒に）」のために利用していた。

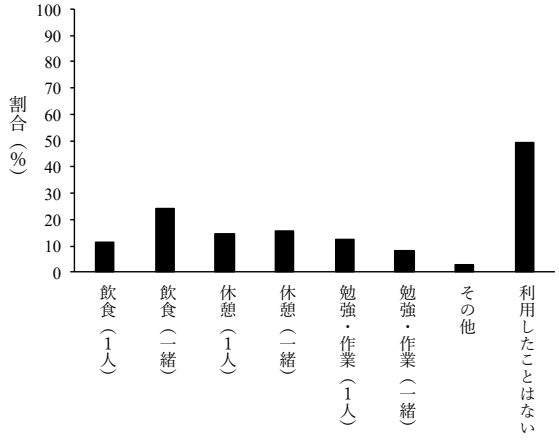

Figure 6. 共同作業スペースの利用状況

進路指導のとりくみの現状と要望

卒業後の進路希望に関する集計結果を Table 6 に示す。全体としては,「企業に就職（一般）」が最も多かった（57.6%）。次いで「進学（大学院）」が 32.4%,「企業に就職（心理学関連）」が 27.5% であった。なお，学年別にみた際，1 年次生において「進学（大学院）」が選択された割合が特に高かった（48.9%）。

次に，関心のある心理学関連職についての集計結果を Table 7 に示す。全体では,「学生相談室 / 教育相談機関（スクールカウンセラー / 教育センターカウンセラー）」が 38.7% と最も関心が高く，次いで「神経科 / 精神科 / 心療内科など（精神保健福祉士 / 臨床心理士）」が 32.6%,「児童相談所（心理判定員）」が 22.8% の順に高かった。

次に，関心のある心理学関連資格についての集計結果を Table 8 に示す。全体で見ると,「認定心理士」が 59.3% と最も関心が高く，次いで,「学校心理士」が 28.7%,「臨床発達心理士」が 27.7% であった。

Table 6
卒業後の進路希望

	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	全体
1 企業（一般）	43.9%	61.3%	71.6%	62.3%	57.6%
2 企業（心理）	35.3%	36.1%	17.3%	8.7%	27.5%
3 公務員（一般）	21.6%	22.7%	11.1%	5.8%	17.2%
4 公務員（心理）	26.6%	16.8%	11.1%	0.0%	16.2%
5 教職	3.6%	2.5%	2.5%	0.0%	2.5%
6 進学（大学院）	48.9%	32.8%	13.6%	20.3%	32.4%
7 進学（専門）	0.7%	3.4%	4.9%	2.9%	2.7%
8 その他	6.5%	7.6%	6.2%	10.1%	7.4%

Table 7
関心のある心理学関連職

	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	全体
1 矯正心理専門職	11.5%	9.2%	7.4%	10.1%	9.8%
2 法務教官	10.1%	7.6%	8.6%	5.8%	8.3%
3 保護観察官	10.8%	10.1%	6.2%	5.8%	8.8%
4 家裁調査官	10.8%	7.6%	8.6%	11.6%	9.6%
5 児童相談所	25.2%	16.0%	27.2%	24.6%	22.8%
6 難聴幼児通園施設	3.6%	8.4%	2.5%	4.3%	4.9%
7 情緒障害児短期治療施設	5.8%	13.4%	6.2%	13.0%	9.3%
8 障碍者更生相談所など	2.9%	5.0%	0.0%	8.7%	3.9%
9 精神保健福祉センター	14.4%	17.6%	14.8%	20.3%	16.4%
10 学生相談室/教育相談機関	35.3%	46.2%	32.1%	40.6%	38.7%
11 神経科/精神科など	34.5%	38.7%	21.0%	31.9%	32.6%
12 その他	19.4%	10.1%	11.1%	5.8%	12.7%
13 関心のある心理専門職はない	15.8%	17.6%	23.5%	26.1%	19.6%

Table 8
関心のある心理学関連資格

		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	全体
1	認定心理士	59.0%	59.7%	60.5%	58.0%	59.3%
2	学校心理士	28.8%	27.7%	24.7%	34.8%	28.7%
3	臨床発達心理士	28.8%	37.0%	16.0%	23.2%	27.7%
4	産業カウンセラー	12.9%	11.8%	16.0%	13.0%	13.2%
5	認定カウンセラー	9.4%	9.2%	12.3%	7.2%	9.6%
6	応用心理士	9.4%	5.9%	8.6%	2.9%	7.1%
7	特別支援教育士	3.6%	4.2%	9.9%	4.3%	5.1%
8	社会福祉士	12.2%	8.4%	8.6%	13.0%	10.5%
9	言語聴覚士	7.2%	10.1%	4.9%	8.7%	7.8%
10	精神保健福祉士	8.6%	9.2%	11.1%	15.9%	10.5%
11	その他	10.1%	11.8%	12.3%	8.7%	10.8%
12	関心のある資格はない	14.4%	14.3%	17.3%	18.8%	15.7%

臨床心理士の関心と資格の取得意志

臨床心理士資格についての関心度と資格の取得意志を学年別に集計したところ（Figure 7, 8），「やや関心がある」「非常に関心がある」と回答した学生の割合の合計は，1 年次生で 77.7%，2 年次生で 75.6%，3 年次生で 63.0%，4 年次生で 71.0% であった。資格を取得しようと思うかについては，「ややそう思う」「非常にそう思う」と回答した学生の割合の合計は，1 年次生で 64.0%，2 年次生で 53.8%，3 年次生で 32.1%，4 年次生で 42.0% であった。

公認心理師の認知度，関心，および資格の取得意志

公認心理師資格に関する認知度，関心度，および資格の取得意志について，学年別に集計した（Figure 9, 10, 11）。その結果，公認心理師資格を認知している学生，すなわち「よく知っている」「少し知っている」「名前を知っている程度」のいずれかを選択した学生の割合は，1 年次生で 97.1%，2 年次生で 98.3%，3 年次生で 97.5%，4 年次生で 98.6% であった。関心度については，「やや関心がある」「非常に関心がある」と回答した学生の割合の合計は，1 年次生で 78.4%，2 年次生で 73.1%，3 年次生で 60.5%，4 年次生で 50.7% であった。資格を取得しようと思うかについては，「ややそう思う」「非常にそう思う」と回答した学生の割合の合計は，1 年次生で 73.4%，2 年次生で 51.3%，3 年次生で 35.8%，4 年次生で 42.0% であった。

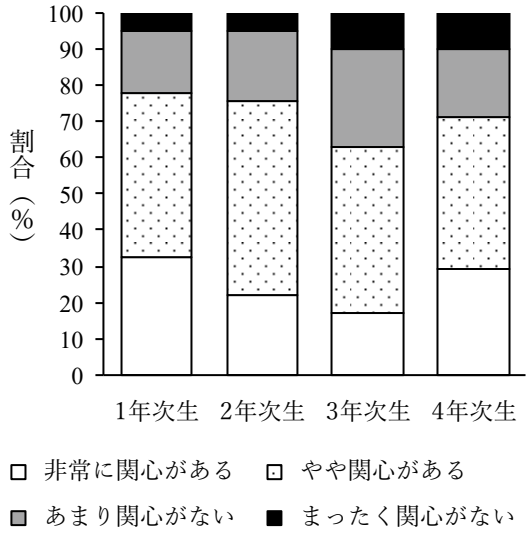

Figure 7. 学年ごとの臨床心理士への関心度

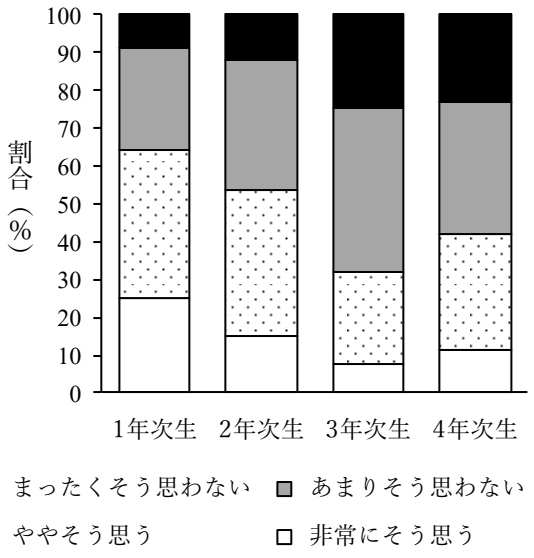

Figure 8. 学年ごとの臨床心理士資格の取得意志

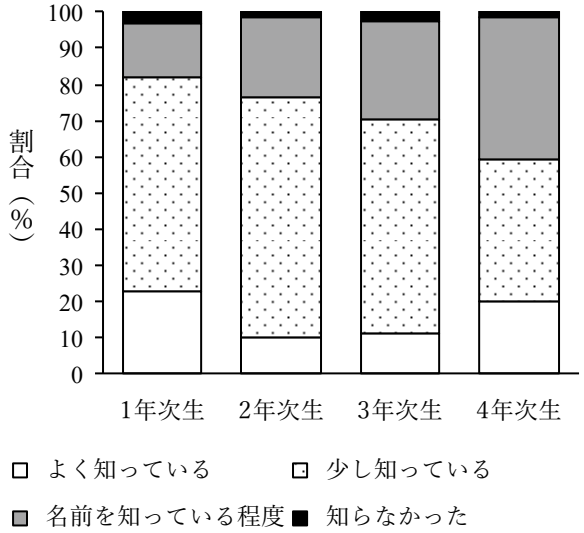

Figure 9. 学年ごとの公認心理師資格の認知度

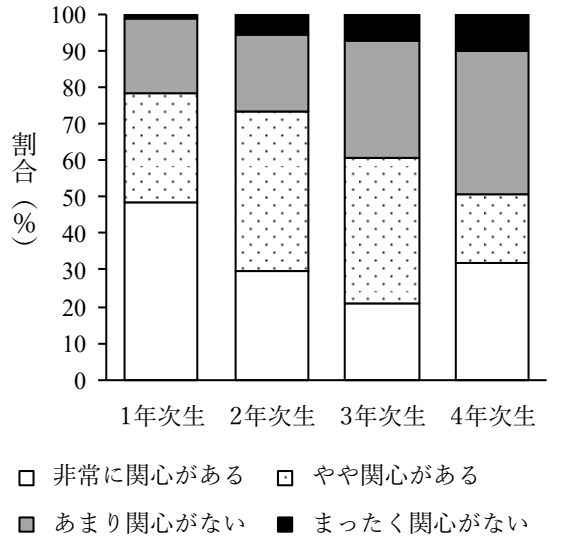

Figure 10. 学年ごとの公認心理師資格への関心度

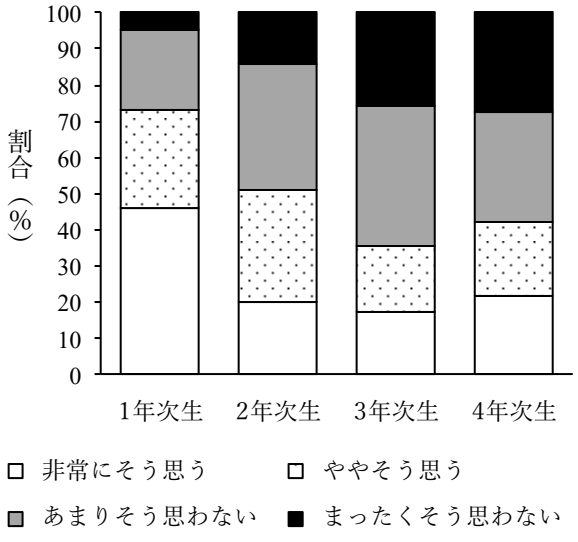

Figure 11. 学年ごとの公認心理師資格の取得意志

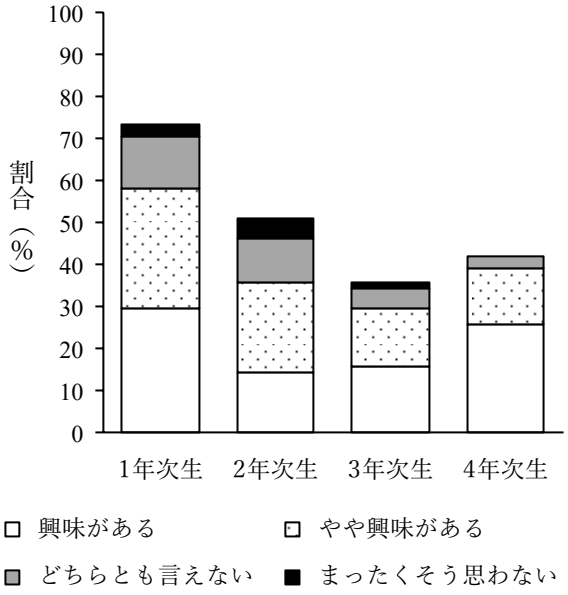

Figure 12. 学年ごとの「心理学研究科」への関心度

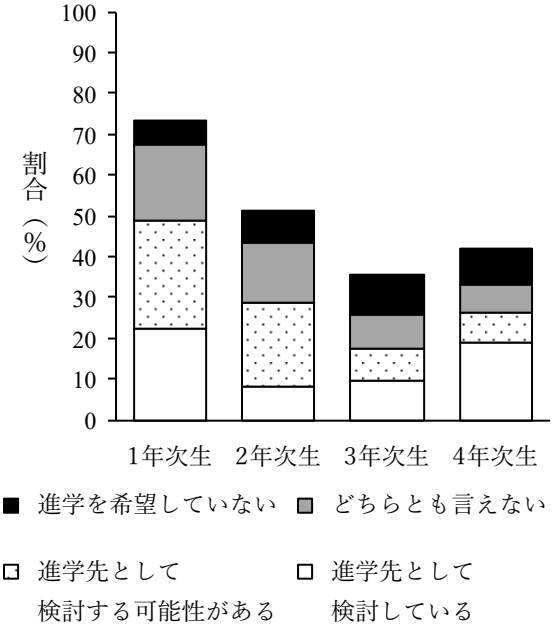

Figure 13. 学年ごとの「心理学研究科修士課程」への進学意思

神戸学院大学大学院心理学研究科への関心

公認心理師資格の取得意志があった学生を対象に，神戸学院大学大学院心理学研究科への興味および進学意思を尋ねた。Figure 12, 13 には，全学生のうちに占める累積比率を示した。その結果，1 年次生では 58.3％，2 年次生では 36.1％，3 年次生では 29.6％，4 年次生では 39.1％の学生が「興味がある」または「やや興味がある」と回答した。また，心理学研究科修士課程への進学意思について，「進学先として検討している」または「進学先として検討する可能性がある」と回答した 1 年次生は 48.9％，2 年次生は 28.6％，3 年次生は 17.3％，4 年次生は 26.1％であった。

SNS の利用状況

普段利用している SNS について尋ねたところ，LINE（96.3%），Twitter（73.5 %），Instagram（47.5 %）を選択した学生が多かった。一方で，Facebook をよく利用していると回答した学生は 4.4% であった。次に，学内情報の受け取りのためにふさわしい媒体としては，メール（53.4%），ドットキャンパス（42.6%）を選択する学生が多かった。LINE（30.4%），Twitter（27.5%）に関しては 30% 前後の学生が選択していた。

考　察

本調査は，心理学部における教育の現状と課題を把握することを目的として実施した。以下では，調査の結果から明らかになった事柄について，1 年次生，2 年次生，および全学年の順に考察する。

外部向けの広報に関する質問の結果から，3 割を超える 1 年次生がオープンキャンパスに参加し，7 割以上の 1 年次生が入学前に学部 HP を閲覧していたことが明らかとなった。ここから，これらの活動には一定のニーズがあり，入学希望者にとって非常に有益な情報源となっていると考えられる。

HP に関しては，どのような授業をしているかに関心が集まっていた。これは，「心理学への興味」が 1 年次生の一番の入学動機であったことを反映するものであろう。1 年次生が興味のある心理学領域としては，例年のアンケートと同様に「人格」，「犯罪・非行」，「行動」などが挙げられた。本学部では社会・医療・臨床・発達の 4 領域を柱とした学びを提供しており，これらのニーズと完全に一致しているわけではない。したがって，今後はこれらの柱に重点を置きながらも，学生が関心を持つ領域についてもフォローし，オープンキャンパスや HP での広報活動を通じて，これらの学びも提供できることを対外的にアピールしていくことが課題となるだろう。

オープンキャンパスや HP とは対照的に，対外的な広報手段としての Facebook については，これまでのアンケートでも指摘された課題が再度浮き彫りとなった。本学の 1 年次生において，進学先を決定する際に Facebook を閲覧したことのある学生はわずか 3.6% であり，今後充実させるべき内容についても特に挙げられなかった。本調査の結果と例年の傾向を踏まえると，外部向け広報手段としての Facebook については活動を縮小し，他の媒体に注力すべきであると思われる。ただし，Facebook の閲覧が少なかったことは必ずしも SNS 自体の有用性を否定するものではない。この点については，後述する SNS 利用実態に関する項で述べる。

心理学に対するイメージを入学前と現在で比較した結果からは，本学部が提供する学びは 1 年次生にとって有意義であることがわかった。具体的には，1 年次生は心理学を学ぶことは難しいと感じつつも，学ぶこと自体の楽しさは入学前の期待と同程度に実感していることが分かった。これは，楽しさを損ねない形で難しい心理学的な専門知識を提供できていることを示しており，実習を主とした本学部の教育の特徴が反映されていると考えられる。さらに，心理学を学べば相手の心が読めるというイメージは払しょくされながらも，心理学は科学的であるというイメージは高まっていたという結果は，単に楽しいだけの授業ではなく，科学的な心理学としての学びを提供できていることを意味する。以上の結果より，今後もこれまでの教育のあり方を継続していくことが望まれるだろう。

次に 2 年次生のみを対象としたゼミ選択に関する質問の結果についてまとめる。ゼミ選択の際に重要視したことについて集計したところ，自身の興味や教員の人柄など例年と同じような傾向が見られた。一方で，事前にもっと知っておきたかったことに関しては，特に教員の研究テーマや教員の人柄について知っておきたかったという回答が例年よりも多かった。これは，新年度になって日が浅い中，多数の新任教員が候補にいる中でゼミ選択をおこなう必要があったためだと考えられる。したがって来年度以降，これらの需要は例年と同程度に落ち着く可能性が高いため，喫緊に対応すべき課題ではないと考えられる。

以降では，全学年を対象とした質問への回答について考察する。まず，内部の学生向けの情報発信手段としての情報掲示パネルについて，閲覧頻度，閲覧内容および充実させてほしい内容を集計したところ，大多数の学生は月数回未満の頻度でしか閲覧していなかった。これは例年通りの傾向であることから，情報掲示パネルは必ずしも学生にとって需要の高い情報源ではない様子がうかがえる。とはいえ，現在，情報掲示パネルが設置されている 14 号館 4 階は学生の往来が多くないため，そもそも情報掲示パネル自体が学生の目に触れる機会が少ないことが需要の低さに結びついている可能性もあるだろう。情報掲示パネルの閲覧頻度の結果とは対照的に，7 割近い学生が少なくとも一回は共同作業スペースを利用していることがわかった。したがって，今後は，共同作業スペースのように学生の往来がある場所へ移動させるなどして，情報掲示パネルの需要を把握していく必要があるかもしれない。なお，発信する情報としては，需要が比較的高いにもかかわらず，現状ではフォローできていない就職や研究関連の情報を拡充していくことが望まれる。

情報掲示パネルと同じ内部向け情報発信手段であるドットキャンパスに関しては，大多数の学生が月に数回以上確認していた。しかも，発信内容に関する新たな需要は特段見られなかった。以上の結果は，情報掲示パネルとは異なり，現状のドットキャンパスは，内部向けの情報発信手段として非常にうまく

機能していることを示している。ただし，ドットキャンパスを経由して発信される情報には即時性が高いものも多く，月に数回程度の確認では足りないこともあると考えられる。したがって，ドットキャンパスで配信される情報をより着実に学生に確認させるための工夫が必要となるだろう。この点については後述する SNS との関連の項で触れる。

心理学マニュアルについて，1 年次生では役立ったことがないという回答が多く見られた。しかし，これは入学して間もない 1 年次生にとって，心理学マニュアルにおいて特に需要の高い「レポートの書き方」を参照する場面が少なかったためだと考えられる。実際に，全学年の回答を確認した際，役立ったことがないという回答は少なく，充実させてほしい内容についても「現状で問題ない」という回答が最も多かったことも加味すると，心理学マニュアルとして十分な情報が提供できていると考えられる。しかし，心理学マニュアルの携帯率については例年通り低い値となっており，毎日持ってきている学生は 1 割程度であった。設備の使い方，物品の借り方，レポートの書き方など，心理学マニュアルには，大学生活で日常的に必要になる情報が多く含まれている。したがって，授業内で活用するなどの工夫を通じて，心理学マニュアルをすぐに参照できるように携帯率を高めることが望まれる。

卒業後の進路としては，例年通り，一般企業への就職を考えている学生が多かった。一方で，1 年次生においては，他学年や例年の 1 年次生比較して，非常に多くの学生，具体的には約半数の学生が大学院への進学を考えていることがわかった。彼らは同様に，神戸学院大学心理学研究科へも高い関心を持っており，全体のおよそ 6 割の学生が心理学研究科に対する関心があると回答していた。さらに，進学先として検討している，または検討する可能性がある学生は，全体の約半数であった。こうした回答には，彼らが 2018 年度より心理学部として改組された本学部の一期生であることや，2019 年度より心理学研究科が発足することなどが影響していると考えられる。今後は，1 年次生の大学院への関心の変化を縦断的に検討し，どういった学生が大学院に対する関心を持ち続けるか，あるいは断念するかなどを明らかにすることで，本学部および研究科としてのあり方について検討していくことが重要であろう。

SNS 利用については，10 代，20 代の若者たちの傾向を反映していた。大半の学生が LINE および Twitter を日常的に使っている一方で，1 年次生を対象とした Facebook の利用実態でも明らかにした通り，全体としても Facebook の利用率はかなり低かった。したがって，外部に加え，内部向けとしても Facebook による情報発信の需要は低いものであるといわざるを得ないだろう。このような Facebook の利用率の低さおよび他の SNS の利用率の高さを鑑みると，やはり LINE や Twitter などの SNS の方が外部向けの情報発信手段としては適当であると考えられる。

内部向けの情報発信について考えた際，LINE や Twitter などの SNS はどのような位置づけが可能であろうか。内部向けの情報発信手段としては，メールやドットキャンパスなど，現在利用されている媒体の需要が高いことがわかった。しかし，上述したように，ドットキャンパスは月に数回程度しか確認していない学生も多数おり，緊急性・速報性の高い情報を発信する際には適当でない可能性がある。その点，LINE や Twitter は，学生の利用率も高く，これらの媒体を利用した情報発信を望む声も一定数存在する。したがって，メールやドットキャンパスが主とした情報発信を担いつつ，高い速報性のある情報については SNS によって補完的に発信していくという形が，学生の利用実態を踏襲しつつ，ニーズに合わせた情報発信手段として適当であると思われる。以上より，外部向けの情報発信手段としては Facebook から他の SNS へ移行すること，内部向けの情報発信としてドットキャンパスやメールを補完する形で SNS を利用することが今後の改善方針として考えられるだろう。

本稿では，2018 年度の学生アンケートの結果を報告した。分析の結果，おおよそ例年通りと同様の傾向が確認された。本年度は，例年から指摘されていた広報活動の課題を整理するため，新たに SNS 利用状況を尋ねた。その結果，SNS を活用した新たな情報発信についての示唆が得られた。今後は，このような情報発信を取り入れるなどして，一層の改善を図っていくことが求められる。

引用文献

秋山 学・森下 雄輔・土井 晶子・長谷川 千洋・博野 信次・石﨑 淳一，…寺田 衣里（2017）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題（11）―2016 年度学生アンケートの結果報告―　人文学部紀要，*37*，75-89.

秋山 学・西浦 真喜子・土井 晶子・長谷川 千洋・博野 信次・石﨑 淳一，…寺田 衣里（2018）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題（12）―2017 年度学生アンケートの結果報告―　人文学部紀要，*38*，145-163.

小石 寛文・本田 周二・秋山 学・日髙 正宏・博野 信次・石﨑 淳一，…栗川 直子（2011）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題（5）―2010 年度学生アンケートの結果報告―　人文学部紀要，*31*，195-213.

小石 寛文・本田 周二・日髙 正宏・博野 信次・小山 正・大日方 重利，…栗川 直子（2010）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題（4）―2009 年度学生アンケートの結果報告―

人文学部紀要，*30*，159-172.
小石 寛文・木戸 盛年・秋山 学・日髙 正宏・博野 信次・石﨑 淳一，…本田 周二（2012）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題（6）―2011 年度学生アンケートの結果報告― 人文学部紀要，*32*，73-93.
小石 寛文・栗川 直子・日髙 正宏・博野 信次・小山 正・大日方 重利，…木村 英樹（2009）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題（3）―2008 年度学生アンケートの結果報告― 人文学部紀要，*29*，139-151.
小石 寛文・光浪 睦美・秋山 学・日髙 正宏・博野 信次・石﨑 淳一，…道重 さおり（2013）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題（7）―2012 年度学生アンケートの結果報告― 人文学部紀要，*33*，109-130.
小石 寛文・松田 崇志・秋山 学・日髙 正宏・博野 信次・石﨑 淳一，…光浪 睦美（2014）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題（8）―2013 年度学生アンケートの結果報告― 人文学部紀要，*34*，43-66.
総務省（2017）. 平成 28 年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書，総務省情報通信政策研究所 .
山鳥 重・栗川 直子・土居 道栄・日髙 正宏・博野 信次・小石 寛文，…木村 英樹（2008）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題（2）―2007 年度学生アンケートの結果報告― 人文学部紀要，*28*，141-156.
山鳥 重・松田 信樹・土居 道栄・日髙 正宏・博野 信次・小石 寛文，…木村 英樹（2007）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題―2006 年度学生アンケートの結果報告― 人文学部紀要，*27*，189-202.
吉野 絹子・長谷川 国大・堀 麻佑子・光浪 睦美・小川 翔大・毛 新華，…清水 寛之（2016）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題（10）―2015 年度学生アンケートの結果報告― 人文学部紀要，*36*，191-208.
吉野 絹子・堀 麻佑子・秋山 学・日髙 正宏・博野 信次・石﨑 淳一，…光浪 睦美（2015）. 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題（9）―2014 年度学生アンケートの結果報告― 人文学部紀要，*35*，217-238.

―2018.10.23 受理―